

保育者の「身体表現あそび」についての意識調査

多胡 綾花^a

^a 湘北短期大学保育学科

【抄録】

本研究では、保育者が身体表現あそびについて感じていることや、保育現場における身体表現あそびの実態を捉えることを目的に、身体表現の実践講座に参加した現任保育者を対象に、身体表現あそびに関する自由記述を中心としたアンケート調査を行った。これらの結果より、身体表現あそびの実施の状況と実践上の問題点を把握し、現場での身体表現あそび実践にむけた課題を明らかにしたいと考える。

【キーワード】

身体表現あそび 保育者 意識

はじめに

幼児教育や保育における、領域「表現」は音楽、造形、劇、舞踊と専門的分野ごとに考えるのではなく、子どもたちの日々の生活の中に表れたり、表されたりする子どもの気持ちや思いを「表現」ととらえ、保育者がその表しや表れをあるがままに受け入れ、受容・共感していくことが大切であるⁱ。また、子どもたちの表現を保障するためには一つの表現方法に偏ることなく、多様な方法に子どもたちが触れることが重要となるⁱⁱ。音楽、歌、楽器、絵画、造形、劇、言葉、動きなどの表現を通して、子ども達の「感性」や「創造性」、「自分なりの表現」をどう育て、引き出していくのが保育内容「表現」の課題といえるⁱⁱⁱ。

しかし、幼児教育や保育の現場では、長い間、「表

現」と関わる保育内容が「音楽リズム」、「絵画制作」と示されてきたことから、活動内容が音楽や造形表現に偏りがちで、身体表現や他の表現が十分に実践されてきたとはいいがたい。特に「身体表現は苦手、難しい」という保育者の声をよく耳にする。筆者が勤務する養成校の学生も、身体表現に対する抵抗感は強く、そのため現場の部分実習での主活動には、制作や音楽活動を選ぶ者が殆どであり、身体表現を選択する学生は極めて少ない。

また、本山らの研究『保育の中の「身体表現」』^{iv}で明らかにされているように、平成元年の幼稚園教育要領、保育所保育指針の改定によって、身体表現の捉え方が広範で、その位置づけが曖昧なものとなり、保育者自身も子どもの表現を引き出すために、具体的どんな実践を行えばよいのかについて、活動そのものの明確なイメージを持ってないという。この現状は、改定から18年経った現在も続いている。

多くの保育者が抵抗感なく、身体表現あそびを

<連絡先>

多胡 綾花 atago@shohoku.ac.jp

実践するためにはどうしたらよいのだろうか。身体表現あそび実践を促す手立てを明らかにしたいと筆者は考えた。そのために、まず現任保育者の身体表現あそびについての意識調査を行い、保育現場における身体表現あそびの実情をよく知るところから始めたい。本研究では身体表現あそびの実践講座に参加した現任保育者にアンケート調査を行い、身体表現あそびについて、どのように考え、どのような問題点を抱えているかを明らかにする。これを基礎的資料として、身体表現あそびの実践を促す手立て、教材研究、展開の仕方について研究していきたい。

語義規定

本論において、「身体表現あそび」は、保育所保育指針オ「表現」(イ)内容より、リズムに合わせて体を動かしたり、感じたことや考えたことを動きで表現したり、自分のイメージを動きで表現したり、演じて遊んだりするあそびや活動を指すこととする。また、「身体表現」ではなく「身体表現あそび」としたのは、保育や幼児教育における子どもの活動が「あそび」を通して行われることが大切であることから、本論において「身体表現あそび」という言葉を用いた。

I. 研究目的

本研究では、保育者が身体表現あそびについて感じていることや、保育現場における身体表現あそびの実態を捉えることを目的に、身体表現の実践講座に参加した現任保育者を対象に、身体表現あそびに関する自由記述を中心としたアンケート調査を行った。

これらの結果より、身体表現あそびの実施の状況とその問題点を把握し、現場での身体表現あそび実践にむけた課題を明らかにしたいと考える。

II. 研究方法

1. 研究方法

本研究は、アンケート調査によって行う。

2. 研究手順

まず予備調査を行い、それをもとに質問項目を設定し、本調査を行う。

3. 調査時期・場所・対象者・人数

調査時期、場所、対象者については以下の通りである。

表1 調査概要

	予備調査	本調査
時 期	2007.6.13	2007.8.5
場 所	神奈川県A市	熊本県K市
対象者(人)	講習受講者	講習受講者
配布票(票)	26	73
回収票(票)	26	66
回収率(%)	100	90.4

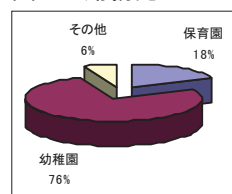
4. 協力者の属性

(1) 勤務先

表2 勤務先

	人	%
保育園	12	18.2
幼稚園	50	75.8
その他	4	6.1
合計	66	

図1 勤務先



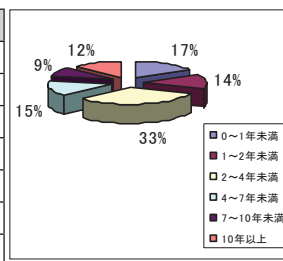
75.8%が幼稚園教諭であり、18.2%が保育園勤務である。その他は体育講師3人と栄養士1人、合計66名である。

(2) 保育・教育歴

表3 保育・教育歴

	人	%
0～1年未満	11	16.7
1～2年未満	9	13.6
2～4年未満	22	33.3
4～7年未満	10	15.2
7～10年未満	6	9.1
10年以上	8	12.1
合計	66	

図2 保育・教育歴



保育者の「身体表現あそび」についての意識調査

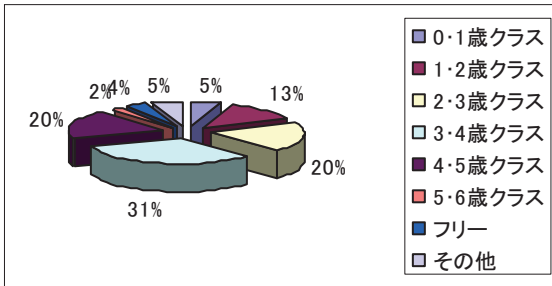
今年1年目という保育者が11人(16.7%)で、1～2年未満の保育士も合わせると、30.3%が経験の少ない保育士である。そして、一番多いのは2～4年未満の保育者22名(33.3%)で、4年以上の中堅保育者は10人(24.3%)である。10年以上のベテラン保育者は8名(12.1%)で、約9割の保育者が10年未満といえる。

(3) 担当クラス

表4 担当クラス

	人	%
0・1歳クラス	3	4.5
1・2歳クラス	7	10.6
2・3歳クラス	11	16.7
3・4歳クラス	18	27.3
4・5歳クラス	11	16.7
5・6歳クラス	11	16.7
フリー	2	3.0
その他	3	4.6

図3 担当クラス



3・4歳を担当している保育者が一番多く、18人

(27.3%)で、2・3歳、4・5歳、5・6歳を担当している保育者がそれぞれ11人(16.7%)である。そして1・2歳を担当している保育者が7人(10.6%)、0・1歳担当が3人(4.5%)や担任を持たないフリーの保育者は2人(約3.0%)である。

5. 質問内容

「身体表現あそび」についてと「講習内容」について尋ねた。質問内容は以下の通りである。

表5 質問内容

質問内容	質問項目	回答形式
身体表現あそび	Q.1 身体表現あそびの実施の有無	選択
	Q.2 身体表現あそびの実施内容および無実施理由	自由記述
	Q.3 身体表現あそび実践上の問題点	複数選択
	Q.4 身体表現あそびについての考え	自由記述
講習内容	Q.5 講習の感想と印象に残った内容	自由記述

6. 講習内容

講習の内容は以下(表6)の通りである。

7. 予備調査まとめ

本調査の前に予備調査を行い、26名の保育者から「身体表現あそび」についてのアンケート調査を行った。その結果を表7にまとめる。

予備調査から、身体表現あそびの実施上の問題点として以下の点が挙げられた。①レパートリー

表6 講習内容

「保育者にとっての身体表現の基礎」(120分間)

テーマ	ねらい	主な内容
ウォーミングアップ [20分間]	自分の身体を巧みに動かす	「チキチキバンバン」
保育者としての身体 [20分間]	自己の身体と向き合う	保育者としての姿勢の再確認
他者と関わる [30分間]	他者の身体と関わる	「ぎゅってぎゅって」「せんせいとおともだち」
広がる表現の世界 [30分間]	表現あそび	「ミックスジュース」「ひつじのメイ」「三匹のこぶた」
みんなであそぼう [20分間]	参加者全員であそぶ	「でんしゃ・でんしゃ」

が少なく、実践内容が同じになってしまう、②年齢にあった実践内容が分からない（特に低年齢の子どもに対して）、③子どもたちが自主的にやりたいと思える実践方法（働きかけや導入）や実践内容が分からない、④やりたがらない子どもや好きでない子どもへの対応、⑤途中で飽きてしまう、ふざけて収拾がつかない場合の対処方法である。この結果を受けて、本調査を行った。

表7 現任保育者26人
研修会アンケート調査結果（平成19年6月）

よくする（3人）
<ul style="list-style-type: none"> ・ CDをかけてよくダンスを踊る（フリー 経験年数5-7年） ・ あいうー体操 めぐるどっカーン ギューボン体操など（2-3歳クラス 経験年数2-3年） ・ 動物になりきって、体操、大根抜き、まねっこあそび（3-4歳クラス 経験年数2-3年）
する（8人）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体操やピアノに合わせて動物に変身（3・4歳クラス 経験年数5-7年） ・ めぐるどっカーンやギューボンなど（1-2歳クラス 経験年数1年） ・ 動物の動きの真似（2-3歳クラス 経験年数2-3年） ・ 体操（フリー 経験年数5-7年） ・ 音楽に合わせて踊る、体操（1-2歳クラス 経験年数2-3年） ・ 歌や音楽に合わせて体を動かしている（0-1歳クラス 経験年数5-7年） ・ 手あそびうたのCDを使って踊っている（4-5歳クラス 経験年数8-9年） ・ CDやピアノに合わせてやっている（フリー 経験年数5-7年）
あまりしない（11人）
<ul style="list-style-type: none"> ・ リトミックをあまり知らない。やるものが限られてしまう。（5・6歳クラス 経験年数5-7年） ・ その子が遊びたい内容が中心なので（1-2歳クラス 経験年数2-3年） ・ 自由あそびが中心なので（1-2歳クラス 経験年数2-3年） ・ どのようなことをやったらよいかの明確なビジョンに欠けている（0-1歳クラス 経験年数1年） ・ 子どもが好きな曲がかかったら踊る程度（2-3歳クラス 経験年数1年） ・ 手あそび程度（フリー 経験年数2-3年） ・ 不得意という意識がある（フリー 経験年数2-3年）

- ・ 1-2歳児なので特に指導はしていない、音楽に合わせて踊る程度（1-2歳クラス 経験年数2-3年）
- ・ この年齢にどのような内容を提供したらよいか勉強中のため出来ない（5-6歳クラス 経験年数2-3年）
- ・ 身体表現あそびをたくさん知らないの、やりたくてもできない（1-2歳クラス 経験年数2-3年）
- ・ 今のクラスに合ったレパートリーが少ないし、集団で活動することが難しい年齢（2-3歳クラス 経験年数10年以上）

しない（2人）

- ・ 音楽を聞き、保育者と一緒に動かす（01歳経験年数1年）
- ・ まだ歩いたり、自分で移動できない（0-1歳 経験年数1年）

苦勞している点

- ・ レパートリーが少ない（3-4歳クラス 経験年数5-7年）
- ・ レパートリーがない（3-4歳クラス 経験年数2-3年）
- ・ ダンスばかりになってしまう（フリー 経験年数5-7年）
- ・ 新しい歌や踊りがなかなか分からない（4-5歳クラス 経験年数5-7年）
- ・ 難しいものばかり知っていて、年齢に合っていない（フリー 経験年数5-7年）
- ・ 0歳クラスでもできるような具体的な内容不足
- ・ 0-1歳クラスではどのようなことを取り入れていくとよいか、その指導・援助の仕方が難しい（01歳クラス 経験年数1年）
- ・ 年齢が低いこともあって、見たこともない生き物や動物は表現しづらそうにしている（2-3歳クラス 経験年数2-3年）
- ・ どのように身体表現に興味を持たせるか（0-1歳クラス 経験年数1年）
- ・ 自主的にやりたいと思えるような働きかけや導入など（0-1歳クラス 経験年数5-7年）
- ・ 新しいものを子どもに伝える時、なかなか楽しむ所までいかず、飽きてしまう（5-6歳クラス 経験年数5-7年）
- ・ なかなかやろうとしない子どもへの誘い方（3-4歳クラス 経験年数5-7年）
- ・ あまり好きでない子どもに対して興味を持たせるような働きかけや導入（2-3歳クラス 経験年数10年以上）
- ・ 恥ずかしいや興味がないなどの理由からやりたがらない子がいる（フリー 経験年数5-7年）
- ・ 未だに子どもたちにとってのツボがはっきり分かりません（1-2歳クラス 経験年数2-3年）
- ・ 子どもたちに何かの真似をして見本を見せたほうがいいのか、自由に表現させた方がいいのか（1-2歳クラス 経験年数2-3年）
- ・ 能力差があるので、どのように援助していったらいいかわからない（1-2歳クラス 経験年数2-3年）

保育者の「身体表現あそび」についての意識調査

- ・ 集中力がないクラスなので、ふざけると收拾が付かなくなる (5-6歳クラス 経験年数2-3年)
- ・ ぶつかってしまったたりするので、広いところで行いたい (1-2歳クラス 経験年数1年)
- ・ 紙に書いてある振付を覚えるのが難しい (1-2歳クラス 経験年数2-3年)
- ・ まだない (経験年数1年)

Ⅲ. 結果

1. 身体表現あそびについて

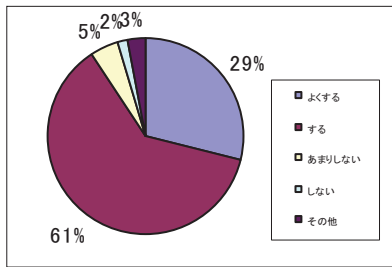
(1) 実施の有無

実施の有無については以下のような表と図にまとめられた。

表 8 実施の有無

	人	%
よくする	19	28.8
する	41	62.1
あまりしない	3	4.5
しない	1	1.5
その他	2	3.0

図 4 実施の有無



身体表現あそびの実施については、よくする (28.8%)、する (62.1%) あまりしない、(4.5%) しない (1.5%) という結果になった。約90%の保育者が身体表現あそびを実践しているということが分かった。

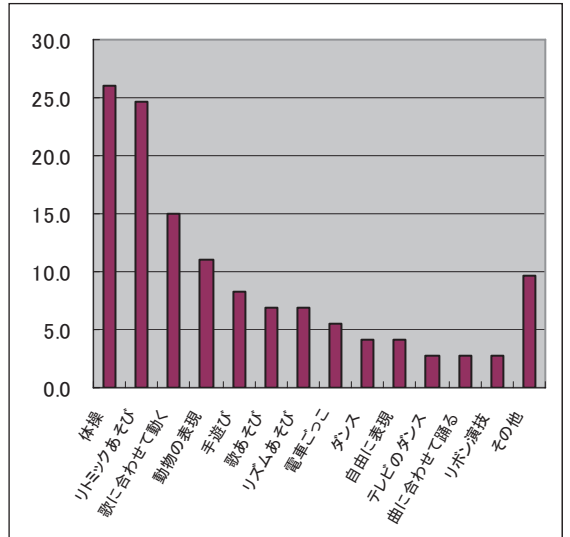
(2) 実施内容

①実施内容

表 9 実施内容 (自由記述)

	人	%
体操	19	26.0
リトミックあそび	18	24.7
歌に合わせて動く	11	15.1
動物の表現	8	11.0
手遊び	6	8.2
歌あそび	5	6.8
リズムあそび	5	6.8
電車ごっこ	4	5.5
ダンス	3	4.1
自由に表現	3	4.1
テレビのダンス	2	2.7
曲に合わせて踊る	2	2.7
リボン演技	2	2.7
その他	7	9.6

図 5 実施内容 (%)



実施内容は、「体操」(26.0%)と「リトミックあそび」(24.7%)が多く、次に「歌に合わせて動く」(15.1%)ことや「動物の表現」(11.0%)と続く。他に「手あそび」(6.8%)、「歌あそび」(6.8%)、「リズムあそび」(6.8%)となる。

(3) 身体表現あそびの無実施理由

身体表現あそびをあまりしない、しない理由としては、以下のようなものがあった。

表 10 無実施理由

- ・ 保育中多く時間が取れない。
- ・ 体育教室で体を動かす程度できちんとした身体表現あそびは行っていない
- ・ 手あそびなどはよくするが、体いっぱい使って表現する時間がない。
- ・ 自分自身が嫌いではないが、不得意なため

保育中に時間が取れないとする意見や手あそびや体を動かすことはしても、全身を使って表現するまでに至らないとあった。また嫌いではないが、不得意であるというものもあった。

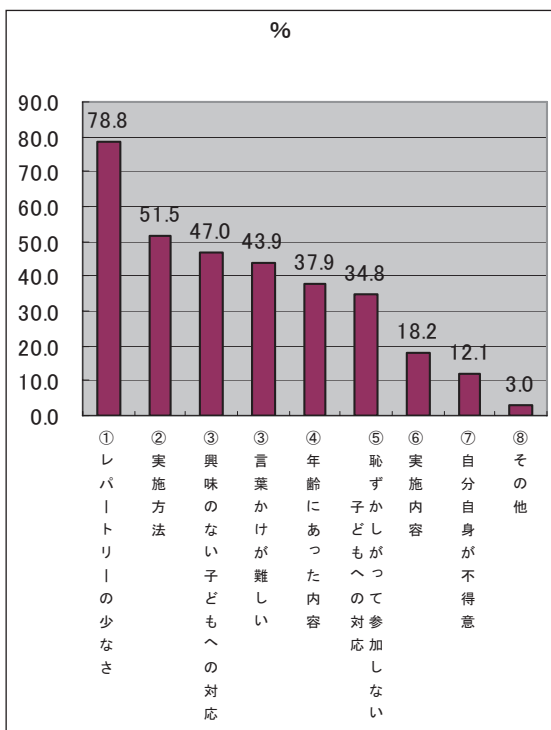
(4) 実践上の問題点

身体表現あそびの実践上の問題点は、以下のよう表にまとめられた。

表 11 実施上の問題点 (複数選択可)

	人	%
①レパトリーの少なさ	52	78.8
②実践方法	34	51.5
③興味を持たない子どもへの対応	31	47.0
③言葉かけが難しい	29	43.9
④年齢にあった内容	25	37.9
⑤恥ずかしがって参加しない子どもへの対応	23	34.8
⑥実践内容	12	18.2
⑦自分自身が不得意	8	12.1
⑧その他	2	3.0

図 6 実施上の問題点



まず、78.8%の保育者が「レパトリーの少なさ」を実施上の問題点とした。次に「実践方法」(51.5%)が続き、半分の保育者が子どもたちの身体表現あそびをどのように実践したらよいか分からないとしている。また「興味のない子供への対応」(47.0%)「言葉かけが難しい」(43.9%)、「年齢にあった内容」(37.9%)、「恥ずかしがって参加しない子どもへの対応」(34.8%)など、保育者の関わりや内容の選択、援助の仕方を問題に感じている。その他に、「実践内容」(18.2%)や「自分自身が不得意」(12.1%)と続く。

(5) 身体表現あそびについての考え

身体表現あそびについての保育者の考えを内容ごとに整理した。

保育者の「身体表現あそび」についての意識調査

表 12 主な内容 (自由記述)

	人	%
身体表現は楽しい	14	21.2
コミュニケーションにつながる	13	19.7
身体表現あそびは自己表現すること	12	18.2
保育者側の姿勢(〇〇するようにしたいなど)	12	18.2
身体表現は素晴らしい、大切である	11	16.7
子ども達が大好きなあそびである	9	13.6
思い切り身体を動かす	8	12.1
心を豊かにする	7	10.6
身体能力・体力を高める	4	6.1
健全な体の育ちにつながる	3	4.5
運動の苦手な子どもも楽しめる	3	4.5
感性を育てる	1	1.5
健康であるために重要	1	1.5
想像力がつく	1	1.5
他のあそびで育ちにくいものが育つ	1	1.5
子どもと一緒に楽しむもの	1	1.5
できれば楽しいが、難しい	1	1.5
体験する機会がないと表現が乏しくなる	1	1.5

一番多かった意見は、「身体表現は楽しい」(21.2%)とするものである。保育者は身体表現あそびを楽しいと捉えているということが分かる。次に多かったのは、身体表現あそびが保育者と子どもや子ども同士の「コミュニケーションにつながる」(19.7%)というものである。そして「身体表現は自分表現すること」(18.2%)であり、次が「教師も楽しんでやらなくてはいけない」,「教諭として感性、表現豊かでありたい」と、「保育者として〇〇するようにしたい」(18.2%)とする、保育者の身体表現あそびに対する姿勢についてであった。また「身体表現は素晴らしい、大切である」(16.7%)とその意義を認めた意見や、「子どもたちが大好きである」(13.6%)と、子ども達が身体表現あそびを好んでいる様子を述べたものである。また「思い切り身体を動かす」(10.6%)、「心

を豊かにする」(10.6%)、「身体能力・体力を高める」(6.1%)、「健全な体の育ちにつながる」(4.5%)、「運動の苦手な子どもも楽しめる」(4.5%)と、子ども達の心と体の育ちや発達に身体表現あそびがつながるといった意見もあった。

2. 講習内容について

(1) 講習会の感想

参加者の講習会の自由記述の感想を内容ごとに分類し、以下の表に整理した。

表 13 主な感想 (自由記述)

	人	%
さっそく子ども達とやってみたい	22	33.3
楽しかった	19	28.8
今後の保育にいかしたい	15	22.7
身体表現について、気付きを得た	12	18.2
明日から活かせるので参考になった	11	16.7
レポートリーが増えた	8	12.1
童心に帰れた	5	7.58
実践的で良かった	4	6.06
心も体もスッキリした	3	4.55
他の先生とも仲良くなれた	3	4.55
自分の保育を振り返れた	2	3.03
資料が欲しかった	1	1.52

受講した内容を「さっそく子ども達とやってみたい」(33.3%)や「楽しかった」(28.8%)、「今後の保育にいかしたい」と、講習会の内容に満足した意見が多かった。また「身体表現について、気付くことができた」(18.2%)と、身体表現についての気付きを深めたとの感想もあった。以下にその詳細をまとめる。

表 14 保育者の身体表現あそびについての気付き

(保育者がまず楽しむこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・いつもリトミックの指導方法で悩んでいたのですが、先生自身が楽しんで取り組むことが一番大切なことなんだと学びました。 ・身体表現についての知識やレパートリーが少ないことが悩みでした。まず保育者自身が楽しむことが非常に大切であると感じました。 ・保育の中で使えるレパートリーが増え、保育者の笑顔や動きがとても大切だと感じた。
(子どものやりたい気持ちを大切にすること)
<ul style="list-style-type: none"> ・身体全体を使って、子ども達がやりたくなるような表現の仕方が大切だと思いました ・言葉のかけ方や子どものひきつけ方を学んだ ・ゲームに入ろうとしない子についてのアドバイスもためになった。子どもたちが楽しいと思えることを大切にしていきたい。
(興味を示さない子どもへの対応)
<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現に興味を示さない子への対応が大変、参考になった。 ・今回の研修を通して、子ども達への指導方法、興味を持たない子への対応を学び、また多くのレパートリーを持つことができました。
(音楽をうまく利用すること)
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて表現することがとても子ども達に興味を持たせることができました ・難しく考えていた身体表現ですが、音楽に合わせてゲーム感覚でしていくと、無理なく楽しめると感じた。
(その他)
<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現は自分で身体を動かし表現するものだと思っていたが、グループで楽しむということも表現ということを再認識できた。 ・身体表現には決まった動作というものがなく、自由に表現できるものだ改めて実感した

講習を通して、まずは自分が楽しんで行うことが基本であり、その上で子どもたちがやりたいという気持ちを大事にして、無理なく進めていくことが大切であると気付いている。

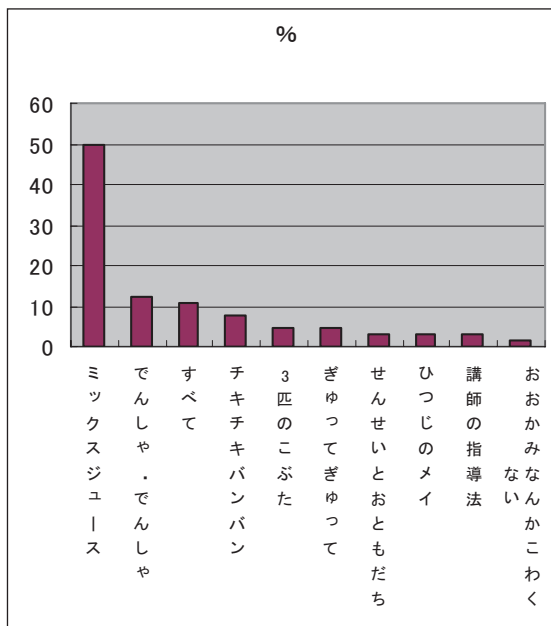
(2) 印象に残った講習会内容

印象に残った講習会の内容について、以下の表にまとめた。

表 15 印象に残った講習会内容

	人	%
ミックスジュース	33	50.0
でんしゃ・でんしゃ	8	12.1
すべて	7	10.6
チキチキバンバン	5	7.6
3匹のこぶた	3	4.6
ぎゅってぎゅって	3	4.6
せんせいとおともだち	2	3.0
ひつじのメイ	2	3.0
講師の指導法	2	3.0
おおかみなんかこわくない	1	1.5

図7 印象に残った講習会内容



多くの参加者 (50%) が印象に残ったものとして、「ぼくのミックスジュース」から展開する身体表現あそびを挙げた。その主な理由は以下のとおりである。

表 16 印象に残った主な理由

理由
・ 子ども達が大好きな歌だから
・ 7月のうたで園でうたっていたので
・ 覚えやすく、自然と体が動けたから
・ 子ども達も喜びそう、テンポもよく、様々に展開できそうだから
・ ダンスが楽しくて、子どもたちともやってみようと思いました
・ それぞれの果物になり、数人で思い切り身体を動かすことができた
・ たくさんの人とコミュニケーションをとることができた
・ 体を思い切り動かせるから
・ 手をつないだり、身体を大きく動かして、とても楽しかった
・ 音楽もノリがよく、自発的にやろうという気になった。
・ ノリがよく、子ども達が主体的に取り組みそうだから
・ 子ども達一人ひとりが役になりきり、個性を出そうと思えると思う
・ 果物のイメージを自分の身体で表現することもできるから

子ども達がよく歌っている曲であることや曲のテンポとノリがよいこと、身体全身を使って表現して遊べること、グループでも表現できること、それぞれの表現ができること、などを理由に挙げた。

IV. 考察

1. 身体表現あそびの実施の現状と問題点

分析結果より、本調査範囲においては多くの保育者が身体表現あそびを実施しているということが分かった。保育者が身体表現あそびへの苦手意識を持っているのではないかと考えた本研究者の仮定を覆す結果となった。しかし、その実施内容は「体操」や「リトミック」、「歌に合わせて動く」が主で、決まった振り付けや動きを行うものが多いと推察される。「動物の表現」を行うなど、若干あったが、想像したものや感じたことを自分なり

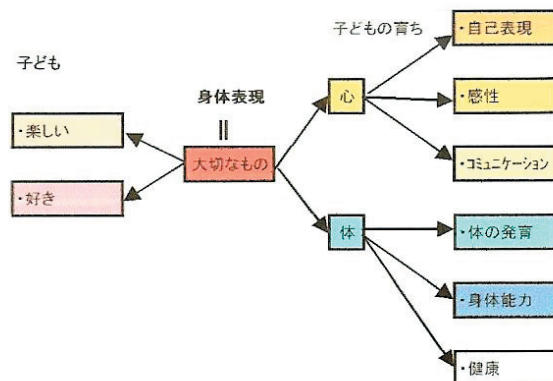
の動きで表現するというような内容はあまり多く見られなかった。

一方、多くの保育者が実施上の問題点として身体表現あそびのレパートリーの少なさを挙げている。身体表現あそびをやりようと思っても内容が一樣になり、行き詰ってしまうという構図である。以上のことから、「体操」や「歌に合わせて動く」、「リトミック」などの特定の活動への集中傾向は、身体表現あそびの実践・援助上の問題点としてあがった「レパートリーが少ない」につながるものと推定される。つまり多くの保育者が、「身体表現あそび」を体操や歌の振付、リトミック等に範囲を限定して考え、したがって、子どもとともに多様な身体表現あそびを試みようとしても、内容が画一化し、展開方法が分からないという現状が浮き彫りとなった。身体表現あそびの実践を広げる鍵はここにあると考えられる。

2. 身体表現あそびに対する保育者の考え

今回の調査範囲における結果から、保育者が身体表現あそびについて、好意的意義を見出し、子ども達の発達や育ちにおいて重要な役割を果たすと考えているということが分かった。その考えを図化すると、下記ようになる。

図 8 身体表現あそびについての考え



保育者は、子どもたちの育ちにとって、身体表現あそびはとても「大切なもの」であると考え、またそれは子ども達にとっても「楽しく」、「大好き」なものである。なぜ身体表現あそびが大切であるかという、保育者は、身体表現あそびが子ども達の「心」と「体」の両面の育ちを促すと考えているからである。心の面においては「自己表現」、「感性」、「コミュニケーション」能力を向上させ、体の面においては「体」の発育・発達を促し、「身体能力」や運動能力を高める。保育者はこのように考え、身体表現あそびの重要性を認め、その意義を見出しているのである。

3. 講習を通しての保育者の気付き

講習を通して、保育者は身体表現あそびを楽しく実践するためには、①まず自分自身が楽しんで行くこと、②子どもたちのやりたい気持ちを大切にすること、③興味を示さない子どもを受け入れること、④音楽やゲームなどを利用することが大切であることに気付くことができた。「身体表現には決まった動作というものがなく、自由に表現できるものだと改めて感じた」と、ある保育者の感想にもあるように、身体表現あそびは、子どもたちが興味を持ったものを自由に身体で表現するあそびであり、一人でも二人でもでき、そこには決まった形や方法はない。そのことを改めて、参加者は実感できたのではないだろうか。この気付きが大切であり、実践上の問題点で挙げた「レパートリーが少ない」という問題はこの気付きにより解決できるのではないだろうか。

4. 保育者のサポート

今回の調査における実践上の問題点から、身体表現あそびの具体的実践方法が分からないとする保育者が多いということが明らかになった。保育者が身体表現あそびについて、具体的にどんな実践を行えばよいのかについて、活動そのものの明確なイメージを持ってないでいる。また、保育者が

「体操」も「手あそび」も身体表現あそびと捉えており、平成元年の幼稚園教育要領、保育所保育指針の改定によって、身体表現あそびの捉え方が広範で、その位置づけが曖昧なものとなっているという現状を確認することができた。このような現状の中で、身体表現あそび実践を広げるためには、保育者へのサポートが欠かせないと考える。

講習の中で最も印象に残ったものとして、受講者の半数の者が、歌から発展する身体表現あそびをあげた。普段から子どもとともに親しんでいる歌から、豊かな身体表現あそびが展開できることを実感できたからである。このように、講習等の機会を活用し、身体表現あそびの実践的な方法を提案したり、自分の知っている歌やあそびが身体表現あそびにつながっていくなど、具体的に示すことで、保育者の身体表現あそびに対する敷居が低くなり、身体表現あそびを実践しやすくなるのではないだろうか。身体表現あそびの援助方法や展開の仕方などを、研修などを利用して保育者に広げていきたい。

5. 身体表現あそびの展望

多くの保育者が身体表現あそびを実践し、子どもたちが身体を使って全身で表現する機会が保障されることは、子どもたちの心と体の育ちにとって望ましいことといえる。しかし、実際に園で実践されている身体表現あそびの内容が領域「表現」の目指すねらいを達成できているのかについては、今回の調査から見て、まだまだ課題が多いように感じた。身体表現あそびの実践内容が子どもたちの感性豊かに感じる心を育て、自分の思いや考えをそれぞれに自由に表現できる身体表現あそびであるかについて、保育者はその内容について、十分な検討と吟味が必要であろう。

また領域「表現」だけで捉えるのではなく、身体表現あそびの体験が子どもたちの心にどのような残り、日々の生活にどう影響していくのか、ま

保育者の「身体表現あそび」についての意識調査

た反対に、毎日の生活の中の体験が身体表現あそびにどれくらい影響を与えているのか、子どもの生活全体を通して考えていかなければならない。そのためには「健康」、「言葉」、「人間関係」、「環境」の他領域との関連の中で身体表現あそびを捉え、子ども達の「感性」や「創造性」、「自分なりの表現」を育む身体表現あそびの実践を目指していくことが大切である。

V. 結論

保育者を対象として「身体表現あそび」に関する調査を行った。その結果、①ほとんどの保育者が身体表現あそびを実践している、②しかし、内容は一律で、それが身体表現あそびの実践の問題点となっている、③身体表現あそびに対して保育者はその意義を見出している、④講習を通して、保育者は身体表現あそびについての気付きを深めた、⑤身体表現あそびへの抵抗感は具体的な活動内容や方法を示すことが大切である、⑥領域「表現」のねらいを達成するためにはまだまだ課題がある、と分かった。

以上をふまえ、身体表現あそびが現場で進んで取り入れられ、保育者が楽しく実践できる方法を検討していきたい。

VI. 今後の課題

今後の課題として、以下の通りである。

- ① 今回の調査結果は対象者が限定的であり、保育者の身体表現あそびについての意識を明らかにできたとはいいがたい。よって、より多数の保育者からの意見を集め、分析することとする。また、質問調査項目についてもさらに検討を加えたい。
- ② 今回の調査では、保育・教育歴による意識の相違について明らかにしていなかった。ゆえに、保

育・教育歴による違いによる身体表現あそび実践上の課題を明らかにするために、保育・教育歴から身体表現あそびについての意識を分析することとする。

- ③ 今回の調査結果により身体表現あそびが広範囲に捉えられていることが明らかになった。身体表現あそびとは何か、その定義付けを行いたい。
- ④ 意識調査だけではなく、身体表現あそびの具体的な手立てを示すために、身体表現あそびの教材研究を進めることとする。

参考文献

- i 黒川建一 2004年 新保育講座11 保育内容「表現」ミネルヴァ書房 pp29-31
- ii 平成元年幼稚園教育要領、保育所保育指針はその考えのもと、「音楽リズム」「絵画制作」は領域名「表現」に改定された。
- iii 「幼稚園教育要領の改善の方向性について 座談会」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/07121722.htm 文部科学省ホームページ
- iv 本山益子・鈴木裕子・西洋子・吉川京子 2002年 保育士養成研究 第20号

Consciousness Survey on “Body Expression Plays” Among Preschool Teachers

TAGO Ayaka

[abstract]

How can preschool teachers practice body expressions without resistance? With an aim of revealing the ways and means of promoting body expression practices, I begin with a consciousness survey on body expression plays among present preschool teachers, in order to learn the reality of body expression plays at child-care sites.

For Understanding what preschool teachers feel about body expression plays, and also the reality of body expression plays at the child-care sites, a questionnaire survey with mainly free-answers on body expression plays was conducted with preschool teachers, who participated in the practice courses of body expression.

From these results, I intend to understand the current situation and issues in practicing body expression plays and to reveal the challenges in practicing body expression plays in the field.

[key words]

Body Expression Plays, Preschool Teachers, Consciousness